



双対基底

\mathbb{R}^n の基底 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ に対して、

$$\phi_i(\mathbf{v}_j) = \delta_{ij} \quad (i, j = 1, \dots, n)$$

を満たす線形写像 $\phi_i : \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}$ を考える

このとき、任意のベクトル $\mathbf{v} \in \mathbb{R}^n$ を

$$\mathbf{v} = \sum_{j=1}^n a_j \mathbf{v}_j$$

とおくと、

$$\phi_i(\mathbf{v}) = \phi_i\left(\sum_{j=1}^n a_j \mathbf{v}_j\right) = \sum_{j=1}^n a_j \phi_i(\mathbf{v}_j) = \sum_{j=1}^n a_j \delta_{ij} = a_i$$

となるから、 ϕ_i は基底 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ に関する第 i 座標を表す関数である

任意の線形関数 $\phi \in {}^t\mathbb{R}^n$ は、座標関数の線型結合として一意的に表現できるから、次が成り立つ

 ${}^t\mathbb{R}^n$ の双対基底の存在 \mathbb{R}^n の基底 $\{\mathbf{v}_1, \dots, \mathbf{v}_n\}$ に対し

て、 $\phi_i(\mathbf{v}_j) = \delta_{ij}$ によって $\phi_i \in {}^t\mathbb{R}^n$ を定める

このとき、任意の $\phi \in {}^t\mathbb{R}^n$ を ϕ_1, \dots, ϕ_n の線形結合

$$\phi = \sum_{i=1}^n \phi(\mathbf{v}_i) \phi_i$$

として一意に書くことができる

すなわち、 $\{\phi_1, \dots, \phi_n\}$ は ${}^t\mathbb{R}^n$ の基底である

ref: 行列と行列式の基礎 p120~121

ref: テンソル代数と表現論 p58~59

ϕ_1, \dots, ϕ_n が線型独立

線形関係式

$$\sum_{j=1}^n c_j \phi_j = 0$$

があるとする、

$$\begin{aligned} \left(\sum_{j=1}^n c_j \phi_j \right) (\mathbf{v}_i) &= 0 \\ \sum_{j=1}^n c_j \phi_j(\mathbf{v}_i) &= 0 \\ \sum_{j=1}^n c_j \delta_{ij} &= 0 \end{aligned} \quad \begin{array}{l} \swarrow \text{\(\phi\) の線形性} \\ \downarrow \\ \swarrow \text{\(\phi_j(\mathbf{v}_i) = \delta_{ij}\)} \\ \downarrow \end{array}$$

左辺の和は、 δ_{ij} の定義より、 $j = i$ の項のみ生き残って、

$$c_i = 0 \quad (i = 1, \dots, n)$$

が得られる ■

$\langle \phi_1, \dots, \phi_n \rangle = {}^t\mathbb{R}^n$

任意の $\mathbf{v} \in \mathbb{R}^n$ に対して、

$$\mathbf{v} = \sum_{i=1}^n c_i \mathbf{v}_i$$

と書く

$\psi \in {}^t\mathbb{R}^n$ を任意にとると、 ψ と ϕ の線形性により、

$$\begin{aligned}\psi(\boldsymbol{v}) &= \psi\left(\sum_{i=1}^n c_i \boldsymbol{v}_i\right) \\ &= \sum_{i=1}^n c_i \psi(\boldsymbol{v}_i) \\ &= \sum_{i=1}^n \phi_i(\boldsymbol{v}) \psi(\boldsymbol{v}_i) \\ &= \sum_{i=1}^n \psi(\boldsymbol{v}_i) \phi_i(\boldsymbol{v}) \\ &= \left(\sum_{i=1}^n \psi(\boldsymbol{v}_i) \phi_i\right)(\boldsymbol{v})\end{aligned}$$

よって、

$$\psi = \sum_{i=1}^n \psi(\boldsymbol{v}_i) \phi_i$$

上式で、任意の $\psi \in {}^t\mathbb{R}^n$ を ϕ_1, \dots, ϕ_n の線形結合で書けることが示せたので、 $\langle \phi_1, \dots, \phi_n \rangle$ は ${}^t\mathbb{R}^n$ を張ることがわかる ■

\mathbb{R}^n の基底 $\{\boldsymbol{v}_1, \dots, \boldsymbol{v}_n\}$ に対して、上の定理で定まる ${}^t\mathbb{R}^n$ の基底 $\{\phi_1, \dots, \phi_n\}$ を **双対基底** という